

## 飯島賢二の『恐縮ですが...一言コラム』

### 第 85 回 化石海水型温泉の将来は？～自然の恵みを考えよう！！

ここ近来、温泉に関する話題は、実に賑やかである。やれ「かけ流し」だ、本物だ、偽者だ、温泉掘ってたらメタンガスが出てきた...やれやれ、大騒ぎである。

元来日本人は「入浴」が大好き。それは単に「清潔を保つ」ということのみならず、温泉・入浴の持つ医療効果、精神的リフレッシュ効果、江戸時代の「湯屋」を垣間見る社会的コミュニケーション効果、つまり「裸のつきあい」など、実によく楽しみ、喜び、うまく活用してきた。だからこそ「温泉」の話は好きだし、故に、うるさくもなるのだろう。

あまり問題になっていないが、小生、ここで一つ、多いに心配していることがある。「温泉」とは何ぞや...に関しては「温泉法」の規定がある。要は地下から湧出する水や水蒸気、ガスで、温度が 25 度以上あるもの、更に決められた 18 種類の物質の 1 種類でも基準以上含まれていれば、温度が低くても「温泉」になる。

問題は温泉の種類である。単純温泉など泉質による種類、冷鉱泉など温度による分類、アルカリ性泉など PH による分類、低張泉などの浸透圧による分類、自噴泉が動力汲上温泉か...いくつかあるが、小生、気になっているのは、火山性か非火山性かの分類である。

地中奥深くある地下水が火山活動により熱せられ、化学成分を含み地表に湧き出たものが、簡単に言うと「火山性温泉」である。火山地帯に近い所にある自噴しているのは、ほとんどこれといっていい。

それに対し、問題は「非火山性温泉」といえる。この温泉には 2 種類あり、そのうち「化石海水型」というものがある。これは太古の地殻変動などで古い海水が地中に閉じ込められ、火山地域でない海に近い地域では、現在の海水や地下水が化石海水に混入しているケースもある。地中深くに溜まったこれら地下水を、石油の掘削のように地下 1,500m 掘れば、ほとんど何処でも必ず出るといわれている。これらも、間違いなく「温泉」である。

現在、東京でも、千葉、埼玉でも、温泉が出た話はたくさんあり、正に「ご近所温泉」となっている。源泉は恐らく 200 を超えると思われる。ところがこれらは前述したように、謂わば「溜まり水」である。1 年か、3 年か、定かでないが、そう長期間でなく枯渇する。枯渇した後は、火山性でない故埋めようがない、空洞ができる恐れが多分にある。

「温泉」でひと儲け...と思っている業者は、3 年ぐらいで止める筈がない。今は本物の「温泉」だが、その時は...？ 地表奥深い地殻構造は...？ 小生、結構マジで心配している。

本来「自然の恵み」である「温泉」。でも今、猫も杓子も、「温泉」ビジネス。無節操・無制限な乱開発を、何ら規制なく繰り返した将来、下手すると「大変な事態」を引き起こしかねない、そんな心配が、余計なお世話になればいいと思っている。